

## ほかにもまだある「いちご園」をご紹介します!

収穫シーズンは各園で異なりますが1月中旬～5月頃です。いちごの生育状況によっては予告なくお休みの場合もあります。予約電話は、集中したり、農作業のために出られない場合もあるのでご了承ください。詳細は各園のHPをご覧ください。

### 徳江いちご農園 (青葉区市ヶ尾町4-10)

営業時間 10:00～15:00(不定休/一部予約制)  
 H P <http://tokuenouen.jp>  
 連絡先 080-6789-7356

### ひでくんちのいちご畑 (都筑区池辺町1577)

営業時間 10:00～15:00頃(水・土日祝/予約制)  
 H P <http://www.hidekunchi.com>  
 連絡先 080-6705-1515

### 秋本農園 (港北区新羽町4270)

営業時間 9:00～15:30(期間中は無休)  
 H P <http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/nousan/midoriup/m-syukaku-6.html>  
 連絡先 080-9355-9856

### もちだ農園 (神奈川区羽沢町1345)

営業時間 10:00～14:00(不定休/予約優先)  
 H P <http://mochidanouen.web.fc2.com/>  
 連絡先 080-6519-8358(9:00～17:00)

### Yours Garden 門倉農園 (戸塚区名瀬町1676)

営業時間 10:00～12:00(日曜日/要予約)  
 H P <http://yoursgarden.net/>  
 連絡先 045-813-2220(ナセグリーンゴルフ)

### ゆめが丘農園 (泉区下飯田町1653)

営業時間 10:00～15:00(土日祝/予約優先)  
 H P <https://www.yumegaokanoen.com/>  
 連絡先 090-2239-5433(8:00～18:00)

### 舞岡いちご園 (戸塚区舞岡町777)

営業時間 10:00～11:30(不定休/予約制⇄当日のみ)  
 H P <http://blog.goo.ne.jp/maioka15en>  
 連絡先 090-4960-8315(9:00～12:00)

### 吉原いちご園 (戸塚区東俣野町785)

営業時間 10:00～15:00(土日祝/平日は要予約)  
 H P <http://www.yoshihara-engei.jp/>  
 連絡先 080-4802-4385(9:00～18:00)

今回取材したのはこちら!

いちご以外の野菜・果物も収穫体験農園はたくさんあります。こちらをご覧ください!

H P <http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/nousan/midoriup/>



## 田んぼは、ビオトープ。

文：相川健志 委員

### 第3回 身近にいるカイコの原種、クワコ ～よく動いて!よく飛んで!～

田んぼや畑の周りを散歩していると桑の木を見かけることがあります。夏ごろ、桑の葉が食べられているあたりを探すと、クワコの幼虫を見つけることができるかもしれません。そして晩秋のころには、桑の枯葉に包まれた小ぶりで薄黄緑色の繭を、冬には枝に卵が張り付いているのを見つけられます。

天然のクワコはとても元気で自由奔放!幼虫は歩き回り、成虫はカイコとは違い飛び回ります。よく見るとどちらもとても愛らしく、見ていて飽きないです。



#### 横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています(個人市民税均等割に年間900円、法人市民税に均等割の9%相当額を上乗せ)。計画書は、環境創造局ホームページ、区役所広報相談係や市庁舎1階市民情報センター、環境創造局政策課で閲覧できます。

環境創造局ホームページ  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/midoriup/>



#### 横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

#### みどりアップQとは?

みどりアップQの“Q”は「みどりアップをもっと知る、なぜなに?(クエスチョン)」と、「緑のある暮らしの質(クオリティー)を考える」。市民目線でみどりアップ計画を探っていく市民推進会議のレポートです。

#### みどりアップQ 第11号

(市民推進会議広報誌 第31号)平成29年12月発行  
 編集：横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会  
 発行：横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

#### 問合せ 横浜市環境創造局政策課(事務局)

〒231-0017 横浜市中区港町1-1  
 Tel : 045-671-4214 Fax : 045-641-3490  
 E-mail : ks-mimiplan@city.yokohama.jp

FSCのマーク  
 スペース  
 (印刷会社で入れる)



# みどりアップQ

緑×まち×未来を考えよう

Vol.11

Dec 2017

横浜みどりアップ計画  
 市民推進会議レポート

## Q わくわく! いちご園を訪ねてみたら?

身近に農とふれあう場があることを知っていますか。

完熟の野菜や果物を自分で採って食べる。

その感動は大人にも子どもにも、かけがえない経験になります。

横浜にもたくさんある収穫体験農園に出かけてみませんか。



# たくさんの人に食べてもらいたい！ たくさんの人々の笑顔を見たい！

市内外の人から親しまれている吉原いちご園は、平成26年度に開園した収穫体験農園です。そこには横浜の農業のこれからのあり方、持続可能な農業を見つめて頑張る方がいました。若い夫婦二人が力を合わせて経営する収穫体験農園について、レポートします。

取材：大竹齋子 委員

奥様のお手製の看板



戸塚区にある吉原いちご園は、28歳のオーナー御夫婦で運営され、繁忙期には1日200～300人のお客様が訪れる大人気の農園。平成28年度にみどりアップ計画の収穫体験農園の開設支援を受け、ハウスを増設しました。

## みんなの美味しい顔が見たい

吉原いちご園のオーナーである吉原翔太さんは、トマト専業農家で生まれ育ち、大学生の頃、父親のけがをきっかけに農業を継ぎました。当初は直売も始めましたが、もっと事業として成り立たせるにはどうすればよいか考え、自分が作ったものをその場で食べておいしいと言ってもらいたいという思いもあり、独立していちごの収穫体験農園に取り組むことにしました。

翔太さんにとって、いちごの栽培は初めての経験。当時この地域には多くの農家がありましたが、いちご農家はなかったため、他都市のいちご農家などで学びながら、自分でいちごを栽培し始めました。今では7種類ものいちごを、それぞれの特性に気をつけながら同時に栽培し、年間約7,000人ものお客様が訪れる人気の収穫体験農園となっています。

## Q. 収穫体験以外にはどんな農園がある？

**A** 学生などを対象に農家が指導を行う「環境学習農園」、農家の栽培指導の下、本格的な農業体験ができる「栽培収穫体験ファーム」、利用者が自由に栽培できる区画貸しタイプの市民農園の「農園付公園」や「特区農園」があります。



市民利用型農園

検索



苗の手入れをする吉原翔太さん

受粉にはミツバチも一役買っています

## 横浜から発信！ 農を身近に感じて欲しい

横浜のような都市型農業は、多くの消費者が生産者の近くにいることが特徴のひとつです。

収穫体験農園を始めてから、消費者の顔を直接見ることができ、声を聞くことができるようになりました。「いちごの味から丹精込めて作っているのがわかるよ」と言って何度も来てくれるお客様たちのためにも、味が落ちたと思われないように努力するようになり、それがモチベーション向上にもつながっています。

また、奥様の信枝さんによるブログやSNSでの情報発信が功を奏し、お客様は市内のみならず全国から訪れています。さらにブログやSNSを通じてお客様との交流が生まれています。それを見てくださる方は、初めて会うのに親しくなれるのが魅力です。

一方、バスで訪れる観光客や海外のお客様も増えましたが、マナーを知らない人も目につくようになりました。そのため、吉原いちご園ではお手製の紙芝居を使い、そういったお客様や子どもたちにいちご狩りのマナーを伝えています。

消費者と生産者の交流は、農を身近に感じ、子どもたちの食育にもつながるなど、双方にメリットが生まれています。



収穫体験のマナーをわかりやすく手作り紙芝居で説明！

## 農とふれあう場づくりと支援の課題

横浜みどりアップ計画では、農とふれあう場づくりのひとつとして収穫体験農園の開設支援を行っています。「いちご農園は初期投資が大きく、新規参入のハードルが高いため、収穫体験農園の開設支援を受けられるメリットは大きい」と翔太さん。3年前の開設時には看板の設置に対して補助を受けました。また、もっとたくさんの人においしいいちごを味わってもらいたいと思い、今年3月に支援を受けて新たにビニールハウスを増設しました。日頃の農園の仕事で忙しい中、膨大な申請書類を準備することはとても大変だったのですが、みどり税が入っていることでその責任を受け止め、努力することにもつながっているそうです。



収穫体験はバリアフリーのハウスの中で。ハウス内はきれいに管理されています



冬にはいちごが赤く実ります



いちごの苗



3月ごろからハウスの外で苗を育て始め、10月ごろにハウス内の苗床に植え付けします(8月撮影)

## “作り、伝える”夫婦二人で楽しく奮闘

開園から3年、軌道に乗り始めた吉原いちご園。収穫時期の土日は多くの人が訪れ、笑顔があふれていますが、その陰には日々の努力が詰まっています。

「いちご農家って冬だけ忙しいイメージを持たれますが、実は一年中忙しいのですよ」と翔太さん。吉原いちご園では12月から翌年5月までが収穫時期ですが、そのために3月からいちごの苗の育生を始めます。朝から晩までいちごのことばかり考えて過ごし、夫婦の会話も自然といちごのことばかりに。自分たちの作ったいちごを沢山の人の口に食べてもらいたい、沢山の人の笑顔を見たい、といちご作りに奮闘する栽培のプロの翔太さんと、ブログや紙芝居などを作りたくさんの人を呼び込む雰囲気づくりのプロである信枝さん。収穫体験農園を訪れるお客様たちに他の農家の方の野菜を直売することで地域や地産地消に貢献したいなどと、今後の夢もあふれていました。

農業を担う人の高齢化や難農、そして収益から見た事業課題が横浜でも大きな問題となっていますが、今回、若い夫婦二人が奮闘しながらも、楽しく夢を語りながら農業を行う姿を見て、これからの横浜の農業が楽しみになりました。

ここにみどり税

収穫体験農園の開設のための施設整備費



看板の作成にも補助が出ています